

入場無料

今年もやります！第16回健康まつり！！

日時：10月18日(日)午前10:00～午後2:00 場所：城北クリニックとその周辺

患者様、ご利用者様、地域の方々との交流を深めるために、今年も健康まつりを開催します。

お誘いあわせのうえ、ぜひご参加ください。

同日、マンモグラフィーサンデーの取り組みも行っていますので、ぜひ予約のうえお越しください。



お楽しみガラポン抽選会



こども薬剤師体験



浅野町校下獅子舞保存会による獅子舞

新病院紹介コーナー



展示会場では、新病院紹介コーナーを設けます
完成模型などでわかりやすく紹介いたします

2015年 10月18日は…

日曜日に
乳がん検査を
受けられる日です

「多忙な平日をお過ごし
の女性の皆様へ」

J.M.S
J.POSH

「ジャパンマンモグラフィーサンデー(J.M.Sプログラム)」は、多忙な平日を過ごしていただける女性の皆様のために認定NPO法人J.POSH(日本乳がんピンクリボン運動)が全国の医療機関に呼びかけた、「10月第3日曜日に全国どこでも乳がん・マンモグラフィー検査が受診できる環境づくり」への取り組みです。

ホームページ: <http://www.j-posh.com/>
J.M.S: <http://jms-pinkribbon.com/>

私たちがめざすもの

医療福祉宣言

城北病院 城北診療所 2015

- 1 患者の立場に立ち、インフォームドコンセントを大切にします。
- 2 専門的な力量向上に努め、安全安心の医療・福祉の提供をすすめます。
- 3 すべての人々の健康づくりを支援し、安心して住み続けられるまちづくりに努めます。
- 4 人権を守り無差別・平等の医療・福祉をめざします。

発行 城北病院 医療福祉連携相談室

〒920-8616 金沢市京町 20-3
TEL 076-251-6111 FAX 076-208-5231
<http://jouchoku-hosp.com>
E-mail renkeisitu@jouchoku.jp



医療福祉連携相談室だより

JO-HOKU No. 40

2015.10.1 autumn

地域連携室長の随想

城北病院副院長 齊藤典才



8月の暑かった夏が終わり、少し涼しくなってきた感じがします。「月日の経つのは早いな～」と感じている連携室長ですが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

実は、「月日の経つのは早い」と申しましたが、それは季節感のこともありますが、医療政策の方にむしろ感じているのです。2014年4月の診療報酬の改定は衝撃的でした。7対1の急性期病床数が過剰だとして、「重症度、医療・看護必要度」や「在宅復帰率」などで縛りをかけ、強引に削減させようとしていました。また、亜急性期病床を廃止し、在宅医療で用いられてきた「地域包括ケア」という言葉の入った「地域包括ケア病棟」を病院側に新たに設けました。一方、在宅では同一日同一建物での複数の患者を訪問した場合の点数が大幅に削減されました。何か激動の改定であったような気がします。私たち城北病院も、最初の数カ月間は新たな診療報酬への対策で大わらわだったような気がします。最も大きかったのは、亜急性期病棟を地域包括ケア病棟に転換したことで、60日間という縛りがあり大変不安でしたが、今は軌道に乗っています。今後は、在宅での軽症の急性期疾患の患者さんを直接受け入れることも検討しています。さらに、在宅診療を行っている医療機関との連携を強めたいとの思いから、在宅療養後方支援病院の届け出も行いました。

そうした2014年4月改定への対応が漸く一段落したと感じている昨今は、来年4月改定の話も聞こえてくるようになりました。財務省は「マイナス5%」と言っているようですが、これから厚労省や日本医師会などとの激しいやり取りが予想されます。2017年4月に消費税が10%に上げられることは決定していますが、それへの解決策は未だ提示されていません。今後はますます医療機関の経営が厳しくなっていくものと思います。

城北病院は今、新病院建設に向かって動き出しました。これからもこの地域に根差し、住民の方々にとって、また、他の医療機関や介護施設の皆さんにとっても利用してもらいやすい敷居の低い病院でありたいと思っています。ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

サポートしています
診断から治療、患者会交流を

乳腺外科治療の取り組み



外科医長
中村 崇

乳腺甲状腺 日本外科学会 専門医
呼吸器外科 日本乳癌学会認定医
高気圧酸素療法専門医
マンモグラフィー検診読影認定医
日本プライマリ・ケア連合学会認定
プライマリ・ケア認定医・指導医

【乳癌早期発見に向けて～】

乳癌は女性の悪性腫瘍の第1位であり、その数は年々増加し、最近では15人に1人の割合で乳癌となっていると言われています。またその多くが45歳から55歳に集中しています。しかし、早期に見つかり治療ができた乳癌の多くが再発なく過ごすことができます。乳癌の早期発見は、①触診と②マンモグラフィーです。自治体乳癌検診は2年におきに触診とマンモグラフィーを行っていますので受診をして頂き、是非月1回の自己検診をお勧めします。

Check 1 鏡の前で、目でチェック

鏡を下げ、胸を下げ、次に胸を上げて形を見ましょう。

乳房にくぼみ、ひきつれはないですか？
ただれ、湿疹、変色はないですか？

Check 2 手で触ってチェック

胸を調べるとき、手の4本の指の腹で乳房を圧迫しましょう。両方のわきの下も調べましょう。

円を描くようにして触りましょう。

乳房にしこりはないですか？
わきの下にしこりはないですか？
乳頭から分泌物はでませんか？

Check 3 おおむけでチェック

左右の乳首を、乳をしぼるように軽くつまんでみましょう。

おおむけに寝て、Check2と同じように調べてみましょう。

定期的な乳がん検診を受けましょう。 ⚠️ 異常が見つかった場合は、すぐに外科の専門医にご相談下さい。

(かなざわピンクリボンプロジェクトHPより引用)

【マンモグラフィーサンデーに協賛しています】

現実の乳癌検診受診率は20%にも達していません。なかなか乳癌検診に足を運ばない理由の多くに、①恥ずかしい②平日の受診は難しいという声を聴きます。当院での乳癌検診マンモグラフィーは、すべて女性スタッフがっており、検査しやすい環境となっています。また毎年10月の第3日曜日(今年は10月18日)は「ジャパンマンモグラフィーサンデー J.M.S」という日で、平日に受診が困難な女性の方のために乳癌検診を受けられるようになっています。当院はその協賛施設でありますので、自治体検診・個人検診どちらでも受診可能となっております、ご利用して頂ければと思います。また検査された画像は、定期的に医師と放射線技師によりカンファレンスを行い、さらに精密検査が必要な際は連絡をし、受診の遅れがないようにしています。

【当院での治療の実際】

当院では年間20例前後の乳がん治療を行っています。乳房温存治療を中心に、センチネルリンパ節生検を行い、転移がなければ腋窩リンパ節郭清を省略し、侵襲の少ない手術を心がけています。(図-1) 乳癌の治療は手術だけでなく放射線治療(当院ではできず、近くの病院に依頼)、ホルモン療法、化学療法の組み合わせが必要です。当院では腫瘍内科の医師とカンファレンスを行いながら最適な薬を選択しています。



【患者会「さくら会」の活動～手術後も支援します】

一旦治療が終わっても、再発や治療薬の副作用など不安が絶えないと思います。当院では乳癌の患者会「さくら会」が5年前より発足しました。勉強会や親睦会、ピンクリボンウォークにも参加しています。先輩患者様からの体験談を聞くことにより、不安の軽減にもつながっています。また年に1度は総会を行い、その時には皆で温泉に入りに行くという企画を続けており、参加者からは好評です。

乳房についての相談窓口は外科外来が担っています。些細なことでも何でも相談をお受けいたしますので、お気軽にお越しください。お待ちしております。

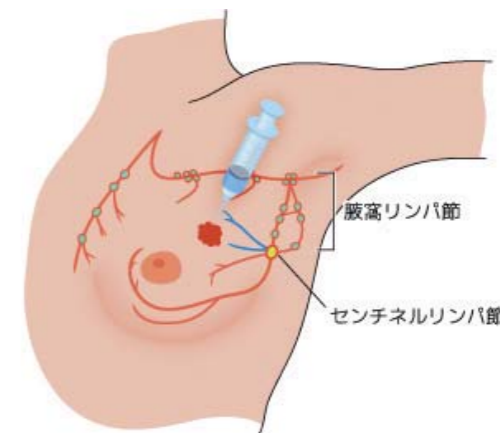


図-1